

京都府造血幹細胞移植対策連絡協議会の概要

- 1 日 時 令和2年2月3日（月） 15:00～16:50
- 2 場 所 京都平安ホテル 呉竹の間
- 3 出席者 委 員：公文委員、小鍛冶委員、近藤委員、島崎委員、白畑委員
高橋委員、谷脇委員、千葉委員、辻委員、原田委員
傍聴者：2名
事務局：片岡健康福祉部副部長
横田薬務課長、薬務課職員

4 内 容

ア「造血幹細胞を提供するドナーのための休暇制度について」

講 師 公益財団法人日本骨髄バンク 広報渉外部 喜田 芳之 氏

- ドナー登録者が移植希望患者とHLA適合した場合、提供ができない人のうち健康理由以外が65%、そのうち仕事などで都合がつかない人が45%であり、提供の応諾率向上のため、企業のドナー休暇制度導入の推進は重要

イ「白血病 骨髄移植を経験して」

講 師 南出 弦 氏

（1999年（平成11年）5月、22歳の時に慢性骨髄性白血病（CML）発症し、京大病院に入院。同年7月、兄とHLAが合致せず、骨髄バンクに患者登録。翌2000年（平成12年）5月、京大病院で骨髄移植を受け、同年8月退院。2007年より医療ソーシャルワーカー（MSW）として、京都山城総合医療センター（京都府木津川市）に勤務。
2009年（平成21年）結婚、骨髄移植前に凍結していた精子で体外受精、2人の子供を授かる。

- 自身の映像や提供者手紙なども披露され、病気の大変さと、骨髄移植により救われたことなどをお話しいただいた。

ウ「京都府における造血幹細胞移植対策等」について

京都府説明

<主な意見等>

- HLAの適合率は98.8%であるが、その中でも白血球が合いにくい方もおられ他の治療に切り替えられる。
- 経済会や経営者の団体に働きかけており、企業を訪問することもあるが骨髄提供者が移植に要する期間などは認知されていない。
- 骨髄提供と抹消血幹細胞提供の手法があるが、抹消血幹細胞は細胞の数のカウントする機器が必要であり、その設備が進んでいない状況にあるので整備の促進が必要

- 患者に対するソフト面では、薬剤師については対物から対人にシフトしており、病院薬剤師、ドクターと協力しながら丁寧に服薬指導を行っている。
- 移植に関する説明、医師問診等が2時間と聞いたが、限られた時間で理解いたくことは難しい。基本的な治療方針の映像を作成し各医療機関が活用できるようにできればよい。
- 臍帯血は採取する者に身体的な負担がないので多くの産科で採取できればよいが、施設の医療体制や管理、配送などの厳密な基準があり、整備が進まない。
- 若い人にバンクに登録いただくことが課題であるが、やせすぎ、貧血などの学生が多く、食事指導が必要（京都府では、大学での移動献血において、比重が足らなく献血できない学生に対し栄養士による栄養指導を実施）
- 臍帯血移植については、保管されている臍帯血の本数が少ないためHLAが適合する白血球を見つけることが困難であり、冷凍保存されているので移植まで時間がかかる。また、1人から採取出来る細胞数が少ないこともデメリットである。
- 京都府としても若年層への更なる啓発と企業に対するドナー休暇の導入を、関係機関と連携のもと実施していきたい。